

うぶね[鵜舟] 2021年2月発行

岐阜大学医学部附属病院広報誌

うぶね



Vol.46

Gifu University Hospital

特集1
ドクヘリ 運航開始10周年

特集2
医師主導治験

トピックス1
患者満足度調査

トピックス2
市民公開講座など

お知らせ
薬局建設工事に伴うお願い

特集1 ドクターへリ

運航開始10周年!



特集2 現在当院で行われている
医師主導治験

小児科 講師 小関 道夫 脳神経内科 臨床講師 吉倉 延亮

ドクヘリ 運航開始10周年! ～10年の歩みとこれから～

岐阜県に住むすべての人のために、岐阜を訪れるすべての人のために、日々活動をBrush upし、日本一をめざして質の高い活動を続けます。

高次救命治療センターは、急性期重症患者の治療に当たる岐阜大学医学部附属病院の中核診療部門です。病院内外で発生する、他の医療機関・救急救命センターでは対処できない高度な治療を必要とする患者さんに対して、24時間体制で高度な診断・治療を行っています。**岐阜県唯一の高度救命救急センター**であるとともに、外傷治療に関しては特に岐阜県から**岐阜県救急外傷センター**に指定され、最重要疾患として治療に当たっています。

重症患者の死亡を減らす為には、搬送体制の整備も大きな問題です。治療開始までの時間の短縮にはヘリコプターの活用が極めて有効であることが認識されています。私の着任直後、岐阜県と協定を結んで、消防防災ヘリを用いた岐阜型ドクターヘリの事業を2004年から開始しました。その後2011年1月からドクターヘリ事業の本格運用を行っています。日中の時間帯のみですが、年間365日休みなしの出動体制を整えており、これまでのフライト実績は岐阜型ドクターヘリの事業を含めれば、のべ**5000回**を超えております。

ドクターヘリ事業とは救急医療用の医療機器を装備したヘリコプターで、医師や看護師等が同乗して救急現場等に向かい、現場から医療機関に搬送するまでの間、患者さんに救命医療を行うことができる専用ヘリコプターです。もちろんヘリコプターを飛ばすだけでは患者さんは救えません。現場に救急専門医を一秒でも早く送り込み、患者さんと接することで救命につながります。これからも、安全な運航を通じて県民の命を守りたいと思います。



高次救命治療センター長
小倉 真治

高次救命治療センター長
医学系研究科 救急・災害医学分野教授

おぐら しんじ
小倉 真治



岐阜大学 ドクターヘリのあゆみ

防災ヘリを利用した「ドクターヘリ的運航」による航空医療

岐阜大学医学部附属病院が柳戸に移転した2004年から、岐阜県防災航空隊が運行する消防防災ヘリコプター「若鮎」により、岐阜基地から飛来して高次救命治療センター医師を病院屋上ヘリポートでピックアップして運用する「ドクターヘリ的運用」による航空医療を展開していました。

これまでの10年

ドクターヘリを「当たり前の医療インフラ」として整備する

それまでの救命救急活動実績、航空医療の実績から、岐阜県よりドクターヘリ基地病院に指定され、全国25番目、中部地区としては4機目のドクターヘリとして、2011年2月8日に運航が始まりました。

2017年には、出動数について検証し、より効果的な運用を行うため高次救命治療センター内にドクターヘリ部門（現在はドクターヘリ・ドクターカー部門）を設置。「医療インフラとしてより使いやすく」をコンセプトに改善を重ね、設置前と比較し50%出動数が増加しました。

2020年12月31日まで、無事故で延べ4252回の出動を行いました。

2021年1月現在、13名のフライトドクター、7名のフライトナースにより、天候不良などで飛行が不可能でない限り、365日出動を行なっています。

Right patient to the right hospital in the right time
(患者さんを適切な時間内に最適な病院へ搬送する)の具現化

これからの10年

これまでの10年で、より効果的にドクターヘリを運用する「インフラ」「システム」についてはかなり安定し、かつ洗練してきたと自負しています。次は「ソフト」の面でより良い活動を展開しようと考えています。

そのコンセプトは、高次救命治療センターの理念の一つでもある**「Right patient to the right hospital in the right time 患者さんを適切な時間内に最適な病院へ搬送する」**です。そのために、日本全国のドクターヘリの運航データベースであるJSAS-Rのデータを用いて、大学であることの強みを生かして、活動の分析や、いわゆる「ビッグデータ」の研究、また私たちが岐阜県とともに集めてきた病院前救護活動のデータと連携した、最適運用を追求して行く予定です。

劇的救命エピソード

case 1

ヘリ運航開始直後スキー場でジャンプ台から転落した心臓破裂患者を搬送。ドクターヘリスタッフが診察した時には血圧測定不能であった患者をドクターヘリで搬送。緊急手術20日目にはリハビリ転院できるまでに回復しました。

case 2

川で溺れた高校生。居合わせた人たちの救命処置から、ドクターヘリスタッフが引き継ぎ救急医療処置。その後岐阜大学病院へ搬送し「ECMO」などを用いて集中治療。16日目には元気に退院しました。

活動にまつわる周囲の変化

中濃地区のある公園は、年に20回を超える着陸があります。ヘリ運航開始直後は物珍しさから様子を見に人が集まる状態でした。しかし現在では、公園でヘリが着陸体制に入ると、そこで遊んでいる子供たちは、指示を受けなくてもベンチまで下り、着陸を待ってくれるようになりました。

※写真は実際の現場とは異なるイメージです。



高次救命治療センター
ドクターヘリ・ドクターカー部門長
山田法顕 講師

ドクターヘリ運航開始 10周年記者会見

令和3年2月5日、岐阜大学において、ドクターヘリ運航開始10周年にあたり、学長記者会見が開催されました。

会見では、森脇久隆岐阜大学長があいさつし、次に小倉真治高次救命治療センター長がドクターヘリの概要を説明した後、山田法顕高次救命治療センタードクターヘリ・ドクターカー部門長がドクターヘリのこれまでのあゆみとこれからの展望を説明しました。

現在当院で行われている医師主導治験

◆ 医師主導治験とは

治験とは、新しい「くすり」が国の承認を得るために、安全性や有効性を確認するために行う臨床試験のことです。従来、製薬企業が行ってきましたが、患者数が少なく、企業の利益に繋がりにくいような「くすり」に対しては、治験が行われにくい傾向がありました。これに対し、医師主導治験は、医師自らが必要と考える「くすり」の承認を得るために企画して行う治験です。2003年の薬事法（現・薬機法）の改正により、このような治験が可能になりました。日本発の医療や、欧米で承認されているながら国内未承認、あるいは適応外使用が一般的となっている医薬品や医療機器に対して、この治験を実施します。現在、岐阜大学医学部附属病院で行われている医師主導治験を2つご紹介いたします。



血管腫、リンパ管腫とは、主に小児期に皮膚に出来る血管やリンパ管の塊（かたまり）です。小さいものや手術などで治る場合は問題になりませんが、巨大な塊の場合は、見た目の問題だけでなく、痛みや出血、感染を繰り返すなど、大変困っている患者さんがおられます。

最近、この病気の細胞の中で血管やリンパ管を増やす遺伝子が活発になっていることが分かってきました。岐阜大学小児科では遺伝子を抑える薬であるシロリムス※（免疫抑制剤）が、病気を小さくし、症状も改善させることに注目して、研究を進めてきました。



日本医療研究開発機構（AMED）から研究費を得て、2017年にリンパ管腫、リンパ管腫症などのリンパ管疾患に対するシロリムス錠の医師主導治験を先端医療・臨床研究推進センター浅田隆太准教授やスタッフの皆様にご協力頂き、実施しました。さらに企業と共に小児用の粉薬を新しく作り、錠剤が飲めない患者さんにも対応できるようにしました。また2020年からリンパ管腫以外の難治な血管腫にも対象を拡げて、治験を実施中です。これまでの治療法では治らなかった病気の患者さんに明るい希望をもたらせるよう、全力で取り組んでいます。

※シロリムス（ラバマイシン）とは、イースター島の土壤細菌から単離された、抗真菌作用を持つマクロライド化合物です。免疫抑制剤として腎移植後に広く用いられているほか、再狭窄の防止の目的で冠動脈ステントのコーティング剤としても使われています。またリンパ管筋腫症（LAM）に対する薬剤としても認可されていますが、血管腫・リンパ管腫には承認されていません。

特発性小脳失調症に対する免疫療法の有効性と安全性を検証するランダム化並行群間試験

吉倉 延亮
よしくら のぶあき
脳神経内科 臨床講師



2021年1月から、岐阜大学医学部附属病院 脳神経内科では、脊髄小脳変性症のうち、特発性小脳失調症（これまでの皮質性小脳萎縮症）の方を対象に臨床試験を実施しています。

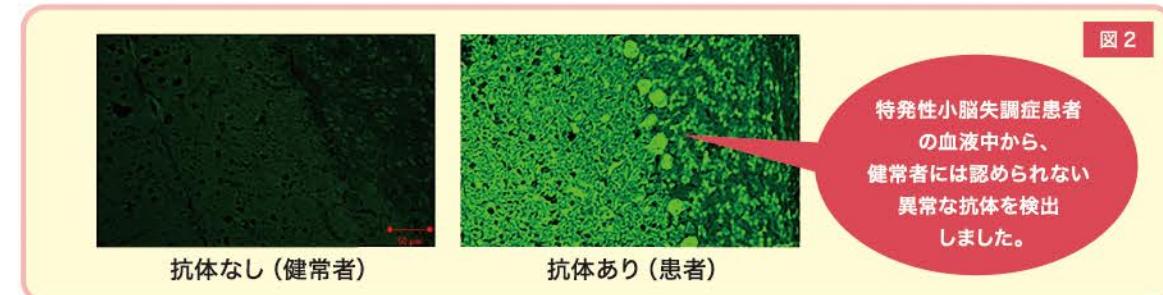
特発性小脳失調症とは

特発性小脳失調症とは、小脳の働きが悪くなるによって、ふらつきや、しゃべりにくさが出現する疾患であり、はっきりと原因のわからないものを指します（図1）。この疾患は、以前は皮質小脳萎縮症という病名で呼ばれていました。このような患者さんの一部に、小脳にダメージを与えるような異常な免疫反応（抗体）が出現していることがわかってきました。（図2）



試験の概要

今回の試験では、特発性小脳失調症（これまでの皮質性小脳萎縮症）と診断されている患者さんで、試験について理解され、参加の希望がある場合に、まず抗体の有無を調べます。抗体が陽性の場合に对象となります。参加いただける患者さんは全部で20名です。対象の方には、メチルプレドニゾロンコハク酸エステルナトリウム（ステロイド）を点滴し、効果と安全性を調べます。



◆ 治験参加のご案内

現在、脳神経内科では治験にご協力くださる患者さんを募集しています。

本試験に関心がある、または、本試験への参加をご希望される場合は、本情報をもとにかかりつけ医にご相談いただき、岐阜大学医学部附属病院 脳神経内科へ紹介状をもって予約の上、受診してください。

令和2年 患者満足度調査について

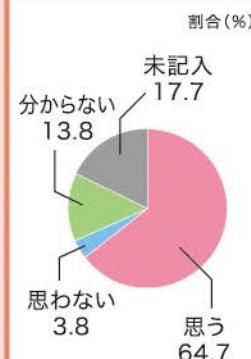
当院は「あなたの対話が創る信頼と安心の病院」の理念のもと、質の高い医療を提供できるよう職員一同努力しております。今後の医療サービス向上のため毎年患者満足度調査を行っており、入院：令和2年3月11日～17日、外来：令和2年2月4日～7日、10日の期間でアンケート調査を実施しました。ご協力をいただいた皆様及びご家族の皆様にお礼を申し上げるとともに、調査結果の一部についてお知らせします。

岐阜大学医学部附属病院 さわやかサービス推進室

外来患者アンケート

回答者数
581名

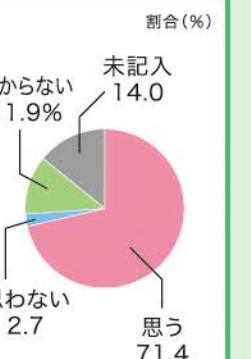
他の方に当院を紹介したいと思いますか



入院患者アンケート

回答者数
336名

他の方に当院を紹介したいと思いますか



医師についての質問(5段階評価)					
平均値	5 とても良い たいへん満足	4 やや良い やや満足	3 どちらでもない	2 やや悪い やや不満	1 とても悪い たいへん不満
4.43					4.52
4.40					4.53
4.39					4.56
4.53					4.70
4.34					4.43
4.41					4.60
—					4.42
4.52					4.64

看護師についての質問(5段階評価)					
平均値	5 とても良い たいへん満足	4 やや良い やや満足	3 どちらでもない	2 やや悪い やや不満	1 とても悪い たいへん不満
4.35					4.60
4.30					4.59
4.28					4.57
4.37					4.61
4.31					4.53
4.31					4.55

その他の職員についての質問(5段階評価)					
平均値	5 とても良い たいへん満足	4 やや良い やや満足	3 どちらでもない	2 やや悪い やや不満	1 とても悪い たいへん不満
4.25					4.51
4.34					4.39
4.36					4.60
4.37					4.58

総合的評価についての質問(5段階評価)					
平均値	5 とても良い たいへん満足	4 やや良い やや満足	3 どちらでもない	2 やや悪い やや不満	1 とても悪い たいへん不満
4.31					4.52

*他の結果は病院HPに掲載します。



手術棟・敷地内薬局 起工式

令和2年10月25日、当院敷地内にロボット手術や人工知能(AI)を用いたナビゲーション手術の研究・開発にも対応できる「手術棟」及び患者さんのサービス向上のための「薬局」を整備することに伴い、起工式が行われました。敷地内薬局は令和3年9月頃、手術棟は令和4年初春の運用を予定しています。



長良医療センター

新しいアライアンスパートナーに

岐阜大学医学部附属病院は、地域医療連携の推進と医療の質の向上に資することを目的にアライアンスパートナーズ／医療機能連携協定を締結しています。この度、24施設目のアライアンスパートナーとして国立病院機構長良医療センターと医療機能連携協定を結びました。



アレルギーセンター 第2回市民公開講座

令和2年11月15日に「ポストコロナ時代をみすえたアレルギーとのつき合い方」と題して気管支喘息と新型コロナウイルス感染症の話題を中心に、市民公開講座(講師:呼吸器内科大野 康先生/小児科川本 典生先生)を、徹底した感染対策※の上実施しました。合計16名の参加をいただき、大変熱心に聴講いただきました。アンケートでは「喘息についての新しい知識を知ったり、コロナの中で、正しく恐れるポイントも理解出来ました」「なかなか研修が開かれないとありがたく感じました」などのお言葉を頂きました。



※感染対策として、入り口でマスク着用の確認、体温測定、手指消毒をお願いし、入り口と出口を一方通行にするとともに、座席の間隔をあけ、席順の記録を残し、利用後に机とイスの消毒を行うなどの徹底した感染対策を行いました。

クリスマスイベント

当院では、令和2年度も11月26日から1月22まで病院1階イベントホール付近でクリスマスイルミネーションが飾られました。

イルミネーションを設置した誠仁会の担当者は、「コロナ禍の中でも患者さんに楽しんでもらいたい」と設置作業をしながら思いを語っていました。



小児科病棟へはサンタクロースが病気と闘う子ども達へプレゼントを持って来てくれました。

病院ボランティア感謝状贈呈式

当院では、毎年、ボランティア活動を行っていただいている方に感謝の意を込めて、感謝状を贈呈しています。令和2年度は、富永綾子さん、辻明子さん、西川幸子さんの3名に感謝状を贈呈しました。



富永綾子さん
3000時間以上の活動

辻明子さん
2000時間以上の活動

西川幸子さん
1000時間以上の活動



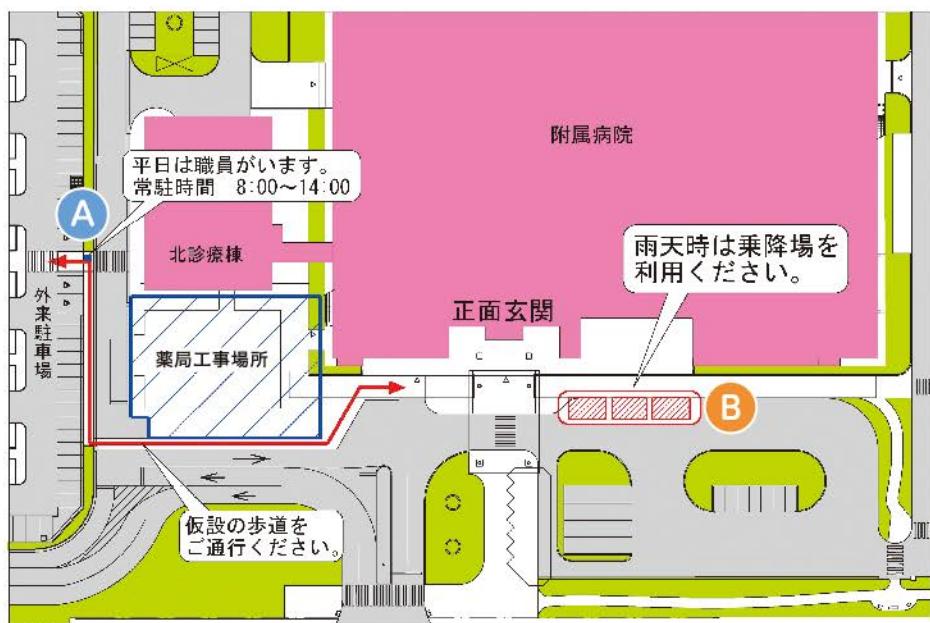
薬局建設工事に伴う、患者さん及び付き添いの方へのお願い

当院では病院機能拡張のための薬局建設に伴い、現在、外来駐車場から病院本館までの通路が仮設通路となっております。仮設通路には屋根が設置できなかったため以下のように対応させていただきます。

その他、ご不明なことがございましたら、病院職員にお尋ねください。工事期間中、大変ご迷惑をおかけしますが、ご理解・ご協力をお願い致します。

工事期間

令和2年11月1日～
令和3年8月31日(予定)



A 車椅子等ご利用になられる患者さん (ご自身が車を運転している場合)

雨天時等につきましては、病院職員が介助させていただきますので、駐車場付近に常駐しております病院職員にお声掛けください。

B 車椅子及び介助が必要な患者さん (付き添いの方が運転している場合)

雨天時等につきましては、病院正面玄関横の乗降場での乗降をお願い致します。乗降場の場所については上の図にてご確認ください。

アクセスマップ

岐阜大学

医学部附属病院

大学院医学系研究科

医学部医学科

医学部看護学科



自家用車でお越しの方は、外来患者駐車場が約600台ありますのでご利用下さい。(24時間利用可)

*大学病院前交差点よりお来院ください。

【駐車整理料金】

区分	駐車時間(入構時間)による料金					備考
	30分まで	60分まで	60分～90分	90分～24時間	24時間～	
外 来 患 者	無 料		100円		加算金額 500円/24時間	
・入院日当日の患者及びその付添者 ・退院当日に来院したその付添者 ※入院期間中継続駐車している 場合の退院日は含まない。	無 料		100円		加算金額 500円/24時間	※入院期間中の 駐車は料金が発生しますのでご 遠慮ください。
一般外来者 ※面会・お見舞い他	無 料		200円	加算金額 100円/1時間 (上限500円/24時間)	加算金額 500円/24時間	

●認証機設置場所／・平日(8:30～17:00)1階会計窓口・入院センター・退院窓口・その他の時間1階夜間受付

●事前精算機設置場所／・1階エントランスホール・1階時間外出入口

【病院へのアクセス】

鉄 道	JR	東海道本線 「岐阜駅」で下車
	名古屋鉄道	名鉄本線 「名鉄岐阜駅」で下車
バ ス	岐阜大学・病院線	約30分
	直行便清流ライナー	約25分
タクシー	岐南町線	約40分
	JR岐阜駅 名鉄岐阜駅	約20分
		320円
		約3,000円

病院広報誌 うぶね(鵜舟) vol.46 2021年2月発行 発行/岐阜大学大学院医学系研究科・医学部情報委員会附属病院部会

〒501-1194 岐阜市柳戸1番1 TEL:058-230-6000(代表) <https://www.hosp.gifu-u.ac.jp> E-mail:hwebmstr@gifu-u.ac.jp